

徳島ネパール友好協会・通信No.

⑦

# コスト・ラムロ कस्तौ राम्री

2001年7月発行



## 第6回 徳島ネパール友好協会 定期総会開催！

平成13年4月21日（土）北島町サンライフ北島2階研修室において、第6回徳島ネパール友好火曜会定期総会を開催した。期末会員数142名、うち会員41名が出席し、下記議案を討議。全議案を可決して終了した。（委任状38名）

### 主な議案

- 2000年度事業実績・決算報告と会計監査報告について
- 2001年度事業計画・予算案について
- 役員を選出について
- その他

なお、会計監査の結果、未収会費の状況について幹事より質問があったが、郵便振込手数料の協会負担を実施することで、今後改善する見込みである旨報告。

また2000・2001年度事業その他について、関係会員から補足説明その他があった。

徳島大学薬学部 村上光太郎 先生

今年度も3月18日～23日の間、村上先生外2名が、ブジュン村薬草調査(第2回 外務省NGO事業補助金による)が実施されたので、前年に引続き記念講演をお願いした。薬草に関してはほとんどの会員は知識は浅いが、村上先生のスライドを使ってのユーモアあふれる説明が好評で、今後も楽しみにしている。

調査報告書：目次は次の通りで、当協会にありますので、ご一覧下さい。

調査報告書

अनुसन्धान तथा सुचना पत्र

Bhujung と Ghorepani の薬草と自然

मुसुङ र घोरैपानीको भाडिव्युटी र प्रकृति



徳島ネパール友好協会  
टोकुशिमा नेपाल मैत्री संघ

調査者：村上光太郎

अनुसन्धान कर्ता सुराखामी कोतारी

通訳：Surendra Dongol

दीभाषी सुरेन्द्र डंगोल

協力者：倉内司郎

साथ दिनेहरु कुराउची सिरा

柳澤充

फ.सु. 1/11/1992

Nepal 王国の薬草調査報告書

目次

ブジュン (Bhujung) とゴルパニー (Ghorepani) の薬草と自然	1
A・Bhujung 村の調査の総論と結果について	
1・薬用植物および有用植物について	4
a・Paris polyphylla の利用	
b・Pipla の利用について	5
c・KHANE CHUTRO (オオバメギ sp.) の利用について	
d・PAJURE (Asparagus racemosus アスバラガス) の利用について	6
e・SHILINGE (イチイの仲間) の利用について	7
f・LINGUR (コブシの仲間) の薬用への応用	
g・AINSELU (野いちご) の利用について	8
2・観光資源として	
3・問題点について	10
a・野焼きについて	
b・発電所関係について	11
4・その他	14
薬用植物・有用植物	19
村の人の生活	21
村人・子供	25
調査風景	29
村との別れ	31
B・Ghorepani 村の調査の総論と結果について	33
1・薬用植物または有用植物について	
a・三種類の Bikha の利用について	
b・CHUTRO (メギ) の利用について	34
c・ササの子の利用について	35
2・観光資源として	36
Rappu (濃赤色のシャクナゲ) について	
3・問題点について	38
a・TACAPANI で薬草に詳しいという KUL MAN PUN 氏の話	
b・LOKTA の皮を剥ぐ	39
有用植物の写真	42
資料編	48

# 徳島ネパール友好協会役員等名簿

敬称略

名誉会長	中瀬 敬之	(徳島大学教授・工学博士)
名誉顧問	岡元 大三	(前徳島商工会議所・会頭)
	遠藤 哲也	(前ニュージランド特命全権大使)
	中谷 浩治	(日本医師会理事)
顧問	洲崎日出一	(徳島市立園瀬病院・院長)
	野口 久雄	(農業・親ネパール家)
	小巻 真二	(小巻法律事務所・弁護士)
	斉藤 武尚	(北島町長)
	美馬 準一	(美馬商事会長)
会長	天野 親聡	(坂出税関支署)
副会長	長尾 正博	(株)四電工
	古林 千之	(前徳島県木材団地協同組合連合会専務理事)
	暮石 洋	(自営・久米電気)
理事	杜 和彦	(J A 徳島市)
	小川 英男	(日本郵便遞送)
	早田 健治	(徳島県庁)
	谷口 安孝	(徳島県庁)
	板谷 章	(株)美馬精機
	山田 善仁	(王子製紙)
	柳沢 充	(柳沢工務店)
	出口 隆司	(御所電気工業所)
	吉本 旭	(徳島新聞社)
	久米 英俊	(N T T 徳島)
	天野 民代	(徳島山と友の会)
	新 吉住千亜紀	
	新 田尾佳代子	(県立中央病院医師)
監事	横田 弘一	(自 営 業)
監事	宮本 晴	(小松島日赤病院)

## コーディネイター

- 倉内 司郎氏 宝塚ネパール友好協会理事長
- スーマン・シュレスタ氏 ネパール徳島友好協会理事長  
(日本語学校々長)

## 会 友

- ビシュヌ・ゴパル・シュレスタ氏 ネパール徳島友好協会会長
- プラチャンダ・マン・シュレスタ氏 ネパール政府前観光省観光局長
- DR・チャンドラ・グルン氏 KMTNC前事務局長

# 消防車寄贈事業陸送隊参加報告

川島町 阿部直司

時刻：太字は日本時間

## 1. 陸送

今回は初めての陸送である。事前に聞いていた話では、インドの交通事情が劣悪とのことであった。確かに交通ルールは、日本の感覚のままではまずダメである。先行車にはホーン、対向車にはパッシング、これでもかというぐらいに浴びせかけながら進行するのである。しかし、路面状況は非常に良好であった。ほとんど日本と変わらないアスファルト舗装で、時には100km/hで走れるところもあり、おかげで日程も楽にこなせた。早朝出発し疲れ果てて夜中にホテルへ到着というようなこともあった昨年の方々には申し訳ないと思ったほどである。

## 2. ポンプ操作指導

ポンプ指導については昨年経験しているが、今回は私一人で行わなければならないので少し不安があった。しかし、市の職員の方々は農業用のポンプで慣れているようで、吸水管、ホース等をテキパキと接続し「さあ、水を飛ばしてみないか」と言ってくるほどで、基本的な取り扱いの確認、合図の徹底、筒先（農業用では使わない）の構え方を指導した位で、十分に使いこなしていた。

あっという間の13日間、運も良かったがとてもスムーズに全ての日程が遂行できた。

ご支援、ご協力いただいた皆様方に心よりお礼申し上げます。

2月

28日 6:50 川島町出発、10:10 関西空港着  
12:30 関西空港発 (RA412 便)、上海 (給油1時間) 経由  
18:45 トリブヴァン空港 (カトマンドゥ) 着、入国手続き  
20:30 夕食、ネパール宝塚友好協会ビシユヌ会長と懇談

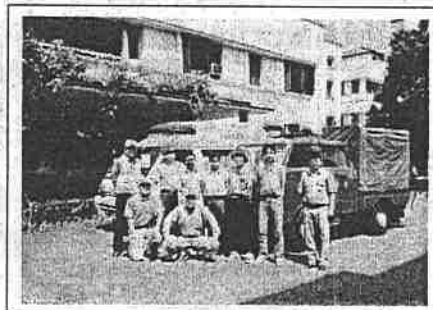
3月

1日 10:00 カトマンドゥ市内見学へ

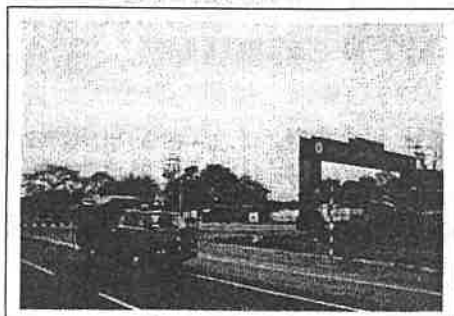
2日 9:30 トリブヴァン空港へ  
13:05 発 (IC748 便)  
14:10 カルカッタ着、入国手続き  
15:30 ネパール総領事館、NTW社  
(通関手続き代行社) 訪問

3日 9:30 総領事館へ (車両整備)  
13:30 カルカッタ市内を試運転  
食料購入

4日 2:30 起床、3:10 出発、ついに陸送開始



ネパール総領事館にて



アッサンソーの入り口にて

至る所でTATAの交通事故による渋滞もあったが、路面状況は予想外に良好

17:30 ボードガヤ・アショカホテルに到着  
菩提大寺 (釈迦成道の地) 見学  
走行距離550km

5日 7:00 菩提大寺参拝後出発  
16:45 バラナシに到着  
走行距離350km

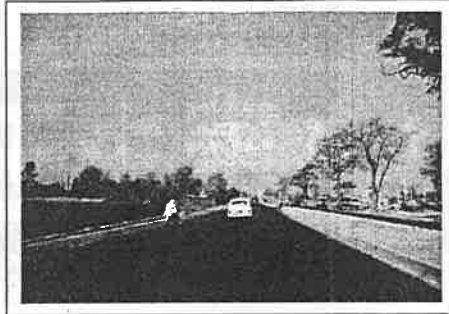
6日 5:00 起床、ガンジス河へ  
休養日 サールナート(釈迦初転法輪の地)見学、バラナシ市内で買物(食料等補給)など

7日 3:30 起床、4:15 出発  
11:00~11:40 クシナガール(釈迦入滅の地)見学  
15:30 国境着、18:05 手続き完了、国境出発  
20:00 ルンビニ・法華ホテル(ルンビニ)に到着 走行距離460km

8日 6:00 起床、ルンビニ園(釈迦生誕の地)、9:00 ルンビニ出発  
16:00 カトマンドゥ到着、陸送終了 走行距離280km

9日 9:10~12:30 車両整備(カトマンドゥ市内整備工場)

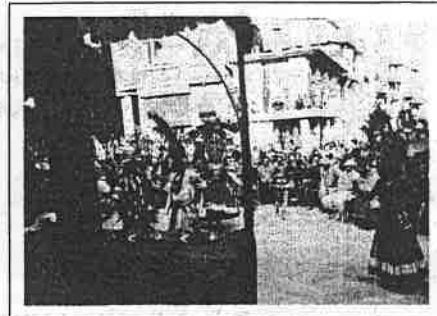
10日 9:00 ボダナート、旧王宮見学へ、11:30 ビシュヌ会長宅(結婚式)へ  
16:00 マディアプール・ティミ市へ(贈呈式、夕食会)



インド名物アンバサダー



記念品贈呈



民族舞踊で歓迎

11日 9:00 ティミ市へ、10:00~12:30 ポンプ指導、14:00~15:50 ポンプ指導  
12日 9:20 ティミ市へ、10:30~12:00 ポンプ指導、14:00~16:00 成果披露  
16:30 市役所で市長と懇談、感謝状贈呈式



成果披露

右：操作指導



13日 9:30 キルティプール市へ(ホース寄贈)、11:40~12:30 副市長と懇談  
21:00 トリブヴァン空港へ、出国手続き

14日 0:05 発(RA411便、機内泊)、上海(給油等2時間)経由  
11:20 関西空港着、12:10 関西空港発(徳バス：徳島駅西行き)  
16:10 川島町着

# 草花・写真展

— 魅せられて花・人・ころ —

山田 喜仁

5月16日（水）～5月31日（木）

徳島市昭和町「ドクター・エンドー徳島」において草花とネパール・フジシズク種の写真展を開催いたしました。多くの方々のご来店をいただき、盛況裏のうちに終了いたしました。

大勢の方々にお運びいただきましたこと、誠にありがとうございました。次回も一層努力したいと今から構想を練っておりますので、またご覧ください。



# ネパール国王夫妻ら射殺

## 皇太子が犯行、自殺

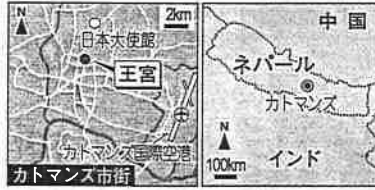
### 王宮内で結婚問題で対立 11人死亡



ディペンドラ皇太子

【カトマンズ2日共同】ネパールの首都カトマンズにある王宮内で一日深夜(日本時間「日未明」)、銃撃事件が起き、ディペンドラ国王(五十)やアイシュワリヤ王妃ら王族十一人が死した。コイラ首相に近い筋は二日、筆頭王位継承権を持つディペンドラ皇太子(十六)が父親の国王と母親の王妃らを射殺、その後自殺したと明らかにした。皇太子の選んだ結婚相手に國王側が反対、対立したことが原因とみられる。(9面に関連記事)

ネパールはディペンドラに移行しているが、国王の事件は王室始まって国王の下で一九九〇年にや皇太子は今も多く、国民に敬愛されている。今の政治、社会情勢の大き



カトマンズ市街

ディペンドラ国王 一九四五年十二月、カトマンズ生まれ。英イートン校、日本の東大、米ハーバード大などに留学。七二年一月に父のマヘンドラ前国王の死去に伴って即位。ネパール民主化運動の高まりの中で、九〇年十一月に複数政党制と立憲君主制を柱とする新憲法を公布した。(共同)



銃撃され死亡したネパールのディペンドラ国王夫妻 =1999年1月、ニューデリー(ロイター=共同)

な不安定要因となる。

首相に近い筋による

と、ディペンドラ国王やデ

イペンドラ皇太子ら王族

が一日夜、王宮内の一室

に集まった際に皇太子の

結婚問題が話題となり、

皇太子と国王らの口論に

発展。逆上した皇太子が

同日午後十一時(日本時

間二日前二時十五分)東  
ごろ、国王や王妃を含む  
王族十人を次々と射殺、  
最後に自殺したという。  
同筋は事件の目撃者は  
いないとしている。

主要な王族で無事だっ

たのは、事件当時カトマ

ンズにいなかったディペ

ンドラ国王の弟のギヤネ

ンドラ王子らわずか、同

王子が今後、王位を継承

するとみられている。

なくなったディペンドラ

国王は七二年に即位、東  
大への留学経験もある親  
日家。事件を起したデ  
イペンドラ皇太子も四月  
下旬に訪日したばかりだ  
った。

ネパールでは第二次大

戦後も長らく国王親政が

続いたが、八〇年代に入

って民主化運動が激化、

これを受け入れる形で同

国王は九〇年十一月、立

憲君主制への移行などを  
柱とする新憲法を公布し

た。アジアの最貧国の一  
つで、最近では立憲君主  
制打倒などを主張する極  
左武装勢力のテロ活動が  
活発化している。

◆ネパール王室◆七十一月、主権在民、パン  
六九年、ゲルカ王朝が国チャヤト制度の廃止、政  
を統一。ディペンドラ国王 党活動の許可などを定め  
は同王朝の第十代国王。 た新憲法公布。国王は象  
マヘンドラ第九代国王は 徴的な存在となり、親政  
一九六〇年に憲法を停止 に終止符が打たれたが、  
し、古来の村落会議に基 国民の王室への敬愛の念  
づくパンチャヤト制度を は強く、現在も王室は國  
元にした専制政治を敷い 政に一定の影響を持  
た。七二年に即位したデ った。ディペンドラ国王、デ  
イペンドラ皇太子とも日 本留学経験があり、日本  
化運動の高まった九〇年 の皇室との交流も深い。

# 突然の惨劇「信じられぬ」

## ネパール国王ら殺害

### 母国の情勢案ずる声

#### 発電所建設 薬草の調査 本県と深いかわり



小型水力発電所の完成記念式典に参列し、天野会長と握手するギャネンドラ王子。国王代行の「摂政」に任命された＝1999年12月3日、ネパールのブジュン村

「大変なことが起こった」「これから王室はどうなるのか」。一日深夜(日本時間二日未明)に発生したネパール王宮での王族射殺事件は、徳島に住むネパール人に大きな衝撃を与えた。母国で起こった突然の惨劇に「信じられない」を繰り返す。同国には徳島ネパール友好協会(天野親睦会長)が水力発電所や救急車を贈ったり、徳島大学の研究者が薬草調査に出向いたりし、徳島とのかかわりは深い。関係者は遠い外国の話とは思えない様子で、今後の政情を心配する声も広がった。

昨年五月に来日し、徳と誓うネパール人男性「アンビリーバブル(信島市内で日本人の妻)も」は、あまりの衝撃に「信じられない」を何度も

#### 本社に事件知らせる 電子メール 要旨

ネパール王宮で王族射殺事件があった2日、現地の様子を知らせる電子メールが徳島新聞社に届いた。差出人は、徳島ネパール友好協会が同国を訪れた際に通訳を務め、首都カトマンズにある王宮の裏に住む日本語学校教頭、シュレンドラ・ダンゴールさん。メールの要旨は次の通り。

#### 最悪な出来事がありました

ネパールでは今日、ピレンドラ国王らがプリンス(ディペンドラ皇太子)に殺されるという最悪な出来事がありました。プリンスが選んだ結婚相手に国王夫妻が反対したことが理由だそうです。これからネパールがどうなるのか分からず、非常に心配です。プリンスはまだ亡くありませんが、長くは生きられそうもないようです。国王の家族で残されているのは、国王の弟

(ギャネンドラ王子)とあと1人しかいません。もしプリンスが亡くなれば、新しい国王はギャネンドラ王子になりそうです。プリンスは軍の病院にいます。国王らの遺体もその病院に安置されています。今日のカトマンズは、本当に寂しく悲しい町に見えます。人々の姿は普段に比べてはるかに少なく、車も走っていません。

繰り返して、しばらく部屋に閉じこもってしまっただけです。」「ネパールには四、五回行ったけど、愛されてきたようですよ。」「妻。」「ネパールに暮らして、国王や王妃の写

心の高さが感じられた。私も信じられませんでした」と続けた。徳島ネパール友好協会のコーディネーターを務める、現地の事情に詳しい倉内司郎さん(59)は「宝塚市在住」はこの日午前五時すぎ、現地の知人からの電話で起こされた。「大変なことが起こった」と震える声。それから眠れなくなった。

倉内さんは「国王代行になるギャネンドラ王子の国民の信頼、評価は決して高くない。うまくまとまればいい」と案じた。徳島ネパール友好協会の呼び掛けに応じ、一昨年末にブジュン村一帯とカトマンズ周辺の薬草生育調査をした徳島大学薬学部助手の村上光太郎さん。ギャネンドラ王子が

「ラナ家」からずっとお妃(きさき)を迎え入れた。ピレンドラ国王をはじめ三兄弟の妻は、アイシユワリヤ王妃らナ家の三姉妹。事件を起こしたディペンドラ皇太子はこの伝統に抵抗し、必要以上に大食して太ったり、ヒゲをそらすに伸ばしたままにしたりしていたという。

「ネパール王室は歴代、日本の徳川家に当たるような「ラナ家」からずっとお妃(きさき)を迎え入れた。ピレンドラ国王をはじめ三兄弟の妻は、アイシユワリヤ王妃らナ家の三姉妹。事件を起こしたディペンドラ皇太子はこの伝統に抵抗し、必要以上に大食して太ったり、ヒゲをそらすに伸ばしたままにしたりしていたという。」

「ネパールの薬草をすべて調べてほしい」と言われていたという。「王室がどうなるのか心配だ。再度、現地調査する予定にしており、早く落ちついてくれればいい」と話した。

「ネパールの薬草をすべて調べてほしい」と言われていたという。「王室がどうなるのか心配だ。再度、現地調査する予定にしており、早く落ちついてくれればいい」と話した。

友好協が理事会、井事件の対応協議、石徳島ネパール友好協会は一日夜、石井町内で理事会を開き、この日未明(日本時間)に起こったネパール王族射殺事件の対応を協議した。理事八人が話し合った結果、水力発電所建設時の現地交渉窓口となり、ギャネンドラ王子が総裁を務める環境保護団体キング・マヘンドラ・トラストと、ネパール徳島友好協会のビシユヌ・ゴパル・シュレスタ会長あてに電報を送ることにした。

今後の対応は、現地の状況を見ながら検討することになっている。

「カトマンズ14日共同」ネパール王宮で一夜起きたピレンドラ元国王夫妻の王族射殺事件の真相究明を進めていた調査委員会(委員長・ウパダヤ最高裁長官)は十四日、事件は自らの結婚問題で元国王夫妻と対立していたディペンドラ前国王が当時皇太子が、酒と麻薬で酩酊(めいてい)した末に起こった単独犯行だったとする報告書を、ギャネンドラ新国王に提出、国王も内容を了承した。

調査委員メンバーのラナバート下院議長が記者会見し内容を公表。さきほどまな憶測を呼んだネパール王室をめぐる惨劇は、二週間を経過して一応の決着をみたこととなる。しかし国民の中には、今も前国王の犯行であることと認めたくない機運が根強く、社会不安は今後も続きそう。事件で王室の権威も失墜、立憲君主制存続の是非を問う声も強まりそうだ。

#### 前国王の単独犯行 調査が報告発表

「カトマンズ14日共同」ネパール王宮で一夜起きたピレンドラ元国王夫妻の王族射殺事件の真相究明を進めていた調査委員会(委員長・ウパダヤ最高裁長官)は十四日、事件は自らの結婚問題で元国王夫妻と対立していたディペンドラ前国王が当時皇太子が、酒と麻薬で酩酊(めいてい)した末に起こった単独犯行だったとする報告書を、ギャネンドラ新国王に提出、国王も内容を了承した。



## コメント

ネパールで信じられないことのそのまた何倍も信じられない事が起こってしまいました。泥酔して呂律が回らず立っていられなかった人が、突然軍服に着替え30キロを超える銃機を携え現れ、建物の内外を疾風のごとく動き回り無言で両親と妹と弟をはじめ叔父、叔母をはじめ13人に銃撃を加えたというのです。

「皇太子の血液からはアルコール分は検出されなかった」と、陸軍病院の医師は新聞記者に語っています。

惨劇の直前に皇太子は、恋人に「もう寝る。おやすみ。また明日話をしよう」と電話をしたとも報告されています。その直後にすべてのことが起こったというのです。

皇太子は右利きだったのに、「致命傷になった銃弾は左こめかみから打ち込まれた」と報告されています。また、当初『自殺』したと報道されていたのが、死因についてはまったく言及されていません。

国王、王妃はじめ亡くなった人々の遺体は『検死』もされずに火葬されてしまっています。検死すれば都合が悪かったかのごとく。

ネパールの人たちは、最高裁長官と国会議長の2人による調査報告を『誰も』とっていいほど信じていません。報告書のことを云うとネパール人は笑っています。

6月6日に、亡くなった第3王子ディンドラの娘婿で陸軍大尉で軍医のラジブ・シャヒが、最高裁長官と国会議長の2人による調査がまだ始まっていないのに、突然目撃者として記者発表を行い「ディンドラは、殺人者」と非難しましたが、何故そんなことが出来たのでしょうか。

また、78個の空のカートリッジが散乱する現場でそれこそ雨のように弾丸が発射された現場にいて、まったく無傷の人がおり、その人が新国王が就任の挨拶の中で、夫人を王妃にすると宣言したものの皇太子にすると宣言することが出来なかった新国王の息子のパラス王子その人だというのが国民がまったく報告を信じず、今回の出来事を『陰謀』、『謀略』と疑う理由です。

来年度予算のための国会が6月25日に招集されましたが、国会ではこの最高裁長官と国会議長の2人による調査報告が取り上げられることになりませんが、どのような展開になるか行方を見守りたいと思っています。

この皇太子によるとされる大量殺戮の調査報告書が、14日(木)の夜、2人の真相究明委員である最高裁長官と国会議長から発表されました。

もともと国民は、事故直後のラム・チャンドラ・ポウデル副首相兼内務大臣の「皇太子が国王、王妃、妹、弟をはじめ他のロイヤル・ファミリーを射殺した」との発表をも信じかねており、新しく王位についたギャネンドラ国王の「銃の暴発が原因」との発表に怒りの抗議デモが発生、新国王は3日以内の真相究明を約束せざるを得ませんでした。

そして上記2名に、最大野党のネパール共産党(マイト・マルキシスト・レーニズ=C.N.UML)のリーダーであるマダブ・クマール・ネパールの3名が真相究明委員に任命されたものの、マダブ・ネパールは、翌日党執行委員会で真相究明委員を受けるべきでないとの決定を受けて辞退しました。

2名になった真相究明委員が調査に着手する前の6月6日、なくなったディンドラ国王の末弟のディンドラ皇太子の娘婿の陸軍大尉で軍医のラジブ・シャヒが、負傷したロイヤル・ファミリーが入院している陸軍病院で突然『目撃者』として前述の記者発表を行い、今回発表された調査報告をそこへ導くかのような発表を行いました。彼は、ホワイト・ボードを用意し図を使って事件の模様を説明しましたが、なぜか質問は一切受け付けませんでした。彼はこの中で「ディンドラは殺人者」と非難しましたが、なぜその時点で彼になぜそんなことが言えたのでしょうか。彼が国王の任命した真相究明委員が調査に着手する前に陸軍病院で、このような記者発表をどうして行い得たのかとともに大きな謎です。巨大な力が動いていると感じたのは私だけでしょうか。

3日後と国王が国民に約束した真相究明の発表は2度延期され、6月14日に国王に提出された後、同日夜国民に公表されました。当初各政党の指導者たちは、この真相究明の公表に際し「国民はこの真相究明報告の公平さに疑問を投げかけてはならない。また報告に対し質問をせず、騒がず平静を保つように」と呼びかけています。

この調査報告が発表された後、日本のマスコミからネパールの報道は姿を消すことになりましたが、ネパールでは2日間の沈黙の後、ネパール・サドバワナ党が「この真相究明報告は、今後の真相解明の基礎にしか過ぎない」との声明を発表、続いて野党の左派6政党が、「報告は不完全かつ不明瞭であり、真実からはほど遠い」との声明を出し、6月25日からの国会で糾すと発表しました。一方、ラストリエ・プラジャタントラ党(王制擁護党=RPP)と与党のネパリー・コンGRESS(国民会議派=NC)は、報告を歓迎するとの声明を出し、事件の『真相』は明らかにされな

いまま推移しています。

調査報告は、ラジブ・シャヒが記者発表した内容どおりで、事件を皇太子ディペンドラの『単独犯行』とするものでした。しかし、それまでに『単独犯行』という言葉は一度も使われたことはなく唐突な感じを否めず、『単独犯行』を強調しなければならない何らかの必要性があったのかの疑問を新たに生じさせました。

この調査報告に対し、ほとんどのネパール国民は、真実が述べられているとは感じておらず、さらなる真相究明を求める声が起こっていますが、多くの国民が抱えている疑問と問題点を有力週刊紙『テレグラフ』の記事によって紹介します。

『調査報告は、6月1日の大虐殺の成り行きを綴ったものでしかない』との表題で『テレグラフ』は、この最高裁長官と国会議長のまとめた報告書の不十分さを指摘しています。以下は、記事の全文です。

先週6月1日の王宮での大虐殺の裏にある事情について国民を納得させるどころか、最高裁長官ケシャブ・ブラサド・ウパディヤを首班とする王室事故調査委員会のまとめられた国民すべてが待ち望んでいた報告書は、相矛盾する内容で組み立てられている。

報告書は単に目撃者たちが見たことを綴り合わせたものとしか云いようがない。

端的に云えば、ネパール国民は皇太子ディペンドラが最初に彼自身の家族を、次いで他のロイヤル・ファミリーを撃ち殺した犯人であるという説を受け入れるのは大変難しいということである。報告書によると、ある箇所では皇太子ディペンドラは泥酔し4人で彼の寝室に運んだとあり、ある箇所ではディペンドラは、浴室で嘔吐しその声を何人かの人間が聞いていると認めている。また、ディペンドラは、カーペットの上で前後不覚で横たわり服を脱ごうとしてもがいていたとも述べています。そして報告書は、その後4丁の重機銃を持ち戦闘服に身を固めて数分後に(ピリヤード・ホール)にきたディペンドラが無差別に彼の父親と他の親族に向けて発射したと結んでいる。

自分の服を脱ぐことさえ出来ず王としている人間が、酔っ払いの合間に素早く服を着替え、重たい銃を持ち自分の部屋から一定の距離を歩いて自分の家族を撃ち殺すために集中力と気力を奮い起こすなんてことは想像できません。

酔っ払ったら人間は一般に寝てしまうものです。また、嘔吐したらまたベッドに戻りたいのが人間というものです。さらに皇太子ディペンドラのように泥酔してかなり弱った人間は、自分で立つことさえ難しいものであるということは明瞭です。

ディペンドラは、どこからそしてどのように全重量が30~40キロにもなる4つの銃機の重たさに耐えうる集中力、『ヒマラヤのような大きな気力』を得ることが出来たのかという疑問を持つのはごく当然のことです。

またプリンセス・ソバ・シャヒは、なぜディペンドラ国王が最初に撃たれた後、ディペンドラを撃たせなかったのかという疑問が浮かび上がってきます。このことは、ディペンドラ国王に今回の王宮内での破滅的な殺戮そのものを収めることが出来たか、さもなくとも死者の数を減らす機会が与えられていたということの意味するものだからです。

報告書は、大変不思議なことに陸軍病院において検死をしないことを医師に押しつけた様子については何ひとつ触れていません。私たちは、このことは非常に重要なことだと考えています。

報告書は、ただただ皇太子ディペンドラを非難し、惨劇をディペンドラの『単独犯行』と云うことで収束しようとする生存者の説明でまとめられているのです。

法医学のエキスパートは、検死されていれば血液、毛髪その他のテストによって殺人者を突き止めることが出来たと述べています。

さらに恐ろしいことは、この報告が嘆き悲しむ国民の前に提出されたその提出の仕方です。

下院議長のタラ・ナス・ラナバットは、あたかも自宅での政治家の集まりのように、出席している報道機関の人間に今回の事件の概要はこうだと自分の見解を押しつけるかのように調査内容を発表したのである。

無責任な態度、やり方で彼は国民が簡単に受け入れることが出来ない恐ろしい殺人者の詳細を報告したのである。

テレビを注視していた国民は、先週の木曜日の夜、すべての出来事を笑いながら報告する議長ラナバットに腹を立てた。この2週間眠ることも出来なかった国民にぞんざいに調査報告をする議長に国民はショックを受けた。

調査報告は、なぜ、誰が、何を、いつ、どうしてという疑問に答えるものでなければならない。殺戮の裏にある解明されていない不明な点についての明快な回答を他の真相究明委員会に期待すべきであろう。

週刊紙『テレグラフ』の記事を紹介しましたが、これはごく普通の圧倒的多数の国民の気持で

す。下院議長については、皇太子が殺戮に用いたという銃機を高く持ち上げ笑いながら報告する姿がテレビや新聞、雑誌で紹介されましたが、その不謹慎な態度に強い怒りと批判が沸き起っています。

国民は、惨劇の場に居合わせた現国王の息子パラスやラジブ・シャヒをはじめ何人かの人たちが、何の傷も負わなかったことに対し拭いがたい疑惑を抱いています。

特にパラスが無傷であったことが国民の疑惑をかめています。彼は、ディペンドラが銃を向けた時、命乞いをしたら撃たれなかったと語っていますが、国民は誰も納得していません。

現国王は、キング・マヘンドラ・トラストの総裁であり、私たちとの関係も浅からず、何人もの人がお目にかかっています。前述しましたが、パラスは『皇太子』の身分を持ち、亡くなった皇太子ディペンドラのように国民から敬愛されるのが本来のあるべき姿ですが、以下のことから国民から忌み嫌われています。

①1997年6月12日に、ラムシャ・パスとディリ・バザールの交差点でタクシーに追突し、運転手を死亡させ乗客に重傷を負わせる事故を起こしています。

この事故を起こす直前、2～3分前にもヤク&イエティ・ホテルを出たところでも事故を起こしており、国民から非難を浴びています。このときタメルで拾った白人女性を乗せていたとのことです。

このとき天野会長と私は、キング・マヘンドラ・トラストとブジュン村との80KWの水力発電所建設の調印式でカトマンズにおり、この事故の当日は、キング・マヘンドラ・トラストからヒマラヤ・ホテルでの昼食に招かれ、昼食後ヒマラヤ・ホテルで開催される自然保護のシンポジウムの会場でキング・マヘンドラ・トラスト総裁である現国王の来られるのを待っていましたが、1時間40分が経過した時点で、「今日のシンポジウムは中止」と知らされましたが、この事故のため現国王が来られなかったと聞かされました。

その時、外国から多くの人を招いておいて息子が交通事故を起こしたからといってシンポジウムを中止するなんて、なんという人だと思いました。「公私の区別も出来ない人」というのがその時の感想です。『息子が息子なら、親も親やな』ですが、一人が死んだ事故をもみ消してしまったとのことです。

②2000年8月6日には、レストランで著名な歌手のプラビン・グルンと喧嘩をし、オートバイで家に帰ろうとしたプラビン・グルンを自分のパジェロで追いかけて、王宮の通用門のところから轢き殺し逃げています。

多くの人に目撃されているにもかかわらず、パラスは『陸軍大尉』のカドカ・バハドール・ブジェルを身代わりに自首させ責任を逃れようとしてきました。後に陸軍は、カドカ・バハドール・ブジェルという人間は陸軍にはいないと発表しています。まさになりふり構わずというという醜さです。

前回のこともあり、国民からパラスの王籍を剥奪し裁きを受けさせるべしという50万人以上の署名が王宮に届けられたので、亡くなられたビレンドラ国王がコイララ首相に事故の報告を求められたとのことですが、パラスは、プラビン・グルン夫人に圧力をかけ告訴をさせず、身代わりのカドカ・バハドール・ブジェルと示談で事故の処理をしましたが、その後賠償金を支払わず訴えられるというお粗末な親子です。

こんな親子を国王と皇太子として認められないと抗議デモが起こったのは当然であり、さすがのギャネンドラ(現国王)もコマル夫人を王妃にする旨宣言したものの、このパラスを王位継承者(皇太子)と宣言出来ませんでした。そんなことをすれば、自分の即位そのものが飛んでしまいかねないということをギャネンドラ新国王は良く理解していたということです。

しかし、今ネパールでは、6月29日の国王の国会でのスピーチでパラスを皇太子とするのではないかと噂されています。皇太子となれば年間1,000万ルピーが支給されるからです。

新国王の資産公開が野党から求められています。新国王は即位するまではビジネスマンとして辣腕を振るっておられ、ビジネスをどうするのかと野党から責められてきています。

有り余るほどの資産を持つ新国王が、わずかに1,000万ルピーのために王制を揺るがすことになりかねないパラスの皇太子として告知をどうするのか国民は静かに注視しています。

これらの交通事故以外に、麻薬をはじめパラスの悪行は数え切れないぐらいで、このパラスが「故ディペンドラ皇太子に銃を向けられた時「助けてほしい」と頼んで見逃してもらった」との説明を国民が信じないというのが当然のことといえます。

現王妃は、当初肺と肋骨に重傷を負い集中治療室で手当を受けているとのことでしたが、早くから普通の食事をとりすでに何日も前から歩いていると報道されていましたが、6月27日に退院されたとのこと。このことにも国民は強い疑惑を抱いています。

地下で活発に活動するネパール共産党毛沢東派(マオイスト)の活動を、取り締まることを口実に6月4日に新しく Public Security Regulation が発効しました。これは、日本で云えば戦前の治安維持法のようなもので、現政府に反対する『活動』を自由に取り締まれる規則で日本で云えば都道府県知事が発動するものです。

6月25日に招集された国会は、新年度予算を審議する国会ですが、王宮での惨劇の真相究明、Public Security Regulation をめぐる論議それに懸案事項のコイララ首相の退陣要求、パラスの問題等、はたして予算を審議する時間がとれるのかと懸念されます。

王宮での惨劇のさなかにネパールで最大の発行部数をもつ『カンチプール』の編集長他3名が、地下で活動するネパール共産党毛沢東派(マオイスト)のリーダーの声明を載せたとして逮捕され、この後インターネット (kantipuronline.com) によるニュースの配信は半分に激減しました。

現在進行中の上院選挙では、野党が多数を取ることは確実で(選挙制度は複雑でここで説明は出来ない)、そうでなくても6月1日の惨劇以後、1990年の民主化以前に逆戻りしたかのよ様な政治状況の中、ネパールの今後は激動も予測され予断を許さない状況にあります。

グルカ送金と観光が外貨獲得の2本柱のネパールにとって、今回の王宮での惨劇で観光客が、ネパール訪問を手控えることは何よりの痛手です。一日も早い真相究明を願い、ネパールに対するマイナス・イメージを払拭し、ネパールの人々との友好親善をこれまで以上に前進させたものです。

最後に、徳島の救急車の贈呈式等にいつも主賓としてご臨席いただいていたプリンセス・ケテキの消息を案じていましたが、6月5日になって左肩に銃撃を受けて重傷を負われたが、集中治療室で治療を受けられていると云うことがわかり胸をなで下ろしました。左肩に筋肉の移植等の手術が行われたとのことで一日も早いご快復をお祈り申し上げます。

倉内 記

お詫び

事務局

### ネパール「文化使節・ダンスチーム」の来徳中止について

ネパール政府観光公社による「観光セミナー」が、5月13日から20日まで東京・大阪・福岡の三都市で開催され、その一行に「文化使節」として、パンチャガルダンスチームが来日しました。観光セミナー終了後、徳島に訪問の予定で、当協会として5月22日～24日の間に、関係先への表敬訪問、協会としての歓迎集会を予定し、準備いたしておりました。しかしダンスチームの帰国の都合で中止となり関係先…徳島県庁、県国際交流協会、NHK、徳島新聞社、四国放送、北島町、川島町と会員のみな様方にご迷惑をおかけいたしましたことを、心から深くお詫び申し上げます。

徳島ネパール友好協会

☎779-3211

徳島県名西郡石井町藍畑字西覚円718-5

TEL・FAX 088-674-4168 TEL 088-675-0835

○事務局よりのお願ひ 会費未納の方は、下記に振込んで下さい。

振込先

(銀行振替) 阿波銀行 石井支店 (普) 1009369 徳島ネパール友好協会

(郵便振込) 石井郵便局 01600-2-52742 徳島ネパール友好協会

吉住千亜紀さん開設ホームページ アドレス

[星とネパール] <http://www3.justnet.ne.jp/~volty/-private>

[徳島ネパール友好協会] <http://www3.justnet.ne.jp/~volty/TONFA/t-nepal>